

## 第2回芸術文化振興ビジョン検討委員会 議事録

平成26年10月22日(水) 14:00~16:00  
兵庫県民会館7階「亀の間」

### 1 開会

### 2 開会挨拶

平野知事公室長が挨拶を行い、引き続き芸術文化振興ビジョン改定に向けた審議を依頼した。

### 3 資料説明

協議に先立ち、芸術文化振興ビジョン改訂の素案について、資料に基づき事務局が説明を行った。

### 4 協議

- H16年に作成したビジョンとはどういう関係になるのか。16年のものも生きているのか。
- 現行ビジョンの検証をしたと思うが、こういう検証からこういう重点取組項目が出てきたという文言は入らないのか。
- 2つ目の成果指標はかなり幅広いので、これに対応する重点取組が必要だと思う。例えば産業的な建物なども住んでいる地域で自慢したい宝と捉えるなど芸術文化を超えているので、各部局とも協力する必要がある。
- 今回新たに重点取組項目の資料1-(2)の整理はビジョンに記載しないのか。次の6年でこのような重点取組項目があるというのが明確に出てこないのはどうか。
- ビジョンには「若者」(通常定義は15~22歳)「青少年」(6~18歳)という言葉があるが、文化の振興をしていくのであれば、就学前教育も大事である。0歳時から対象の事業があれば、わかるように表現したほうがよい。
- 教育現場ではイベント的に一流のアーティストを呼ぶような企画もあるが、一過性のものにすぎないので、カリキュラムまで落とし込んで、専門の方が授業を担う、部活動でスペシャリストから指導を受けるなど、教育委員会とも相談して、教育現場でのソフト面での充実を図ってほしい。
- 芸術に参加する、見る、聴く、買うなどが、実際に自分たちの生活の中で身近にできる施策が必要。例えば「街かど美術館」や「街かど音楽会」や「街かどアート青空市」などを各

市町が積極的に推進していくような働きかけがあるとよい。

- 目標に対する様々な取組の説明がされているが、あらゆる立場の人がどのような役割を担っているのかという切り口での表現があっても良いのではないか。例えば「民」は県民、「官」は行政、「産」は事業者、「団」は支援団体やNPO法人、「芸」は芸術家、など5つぐらいのカテゴリーの人がどのように関わっていくかということがわかりやすく表現されている補足資料があればよい。
- 成果指標の設定で、10%の目標アップは非常に大きい。一般の県民を対象にしている、日々芸術文化に関わっている人が対象でないとすると、一般の人への啓発活動が必要になってくる。
- H27年3月に姫路城がオープンするが、姫路城に関する記載はない。姫路城は施設であって芸術ではないが、姫路城を通じて日本の伝統文化、芸術を見に来られる方が多い。必ずしも施設を見に来るわけではないとなると、観光分野と芸術とのコラボは必要不可欠。姫路城では、薪能、観月会、観桜会、琴の演奏などもやっているが、まだまだ県民に知られていない。既存のイベントを通じて、県民にどのように文化のあり方をPRしていくかということ。子どもたちにも文化に触れる機会が増えていくと思う。そこから市民意識の向上を図ることで、6年間で10%という高い目標に近づいていく。
- 重点取組項目は何のためにやるかということがはっきり出ていない。前回のどの部分を受けてこれを作ったのかわかりにくい。基本目標と基本方向は維持しつつというのがあるが、ここをきっちりと出さないと、何のためにやるのかというのがボケてしまう。行政としてやることはできているが、それに乗って行く時の高揚感が見て取れない。
- 例えば西宮の芸文センターも西宮市民には誇りだと思うが、新しいものもそういうものになりうるという視点も入れて行かないといけないと、ついていけない地域も出てくる。交流がもっと活性化するのが、文化芸術の役割だと思っている。意識としてこういうことを各地でやっていくんだという、これからの時代にふさわしい、ある程度盛り上がっているところからもっと進んでいく、もう一段あがる感じが不足している。
- 兵庫県でも芸術文化振興副読本など（兵庫県の文化、スポーツ、科学、防災等も含んだものでもよいが）を作って、学校で横の連絡をしらしめるのが大切ではないか。
- 淡路、但馬など広域な地域で、優秀なエンターテインメントのリストをあげて、アウトリーチに役立てることをやってはどうか。
- アニメについても考えてもらいたい。観光の面でも、芸術文化でも、世界的に日本のアニメーションが重要視されている。

- ピッコロ劇団が阪神淡路の時に大きな役割を果たし、今も東日本の被災地に出かけて大きな成果をあげている。鑑賞することにも癒し効果があるが、子どもたちのワークショップを数多くしたことが、子どもたちの元気を作った。兵庫県立劇団として、専門的に、災害時におけるワークショップのノウハウ、プログラムをきっちり作っていく役割があるのではないか。各地で起こっている様々な災害でも使えるように、全国的に発信できるように持っていく必要がある。
- 改定ビジョンは言葉だけが浮いているような気がしてならない。芸術は生活の中で溶けこまなければ、我々がいくら頑張っても結果は出てこない。県美でだまし絵の展覧会をしているが、県民にとって非常にわかりやすく、美術館でみなが会話している。年齢層もお年寄りから子どもまで楽しんでいて、こういう展覧会をもっとしていかないといけない。県ももう少し子どもたちに目を向けてもらって、子どもに感性を持ってもらうことが、将来兵庫県から素晴らしい人がでてくると思う。
- 展覧会の経済波及効果にも興味がある。よいという評判になれば、いろんな人が来てくれて兵庫県にたくさんお金がおちる。
- 新国立美術館と県立美術館で、来年アニメ、ゲーム、マンガ3つの展覧会をやることになった。その後東南アジア（ミャンマー、ベトナム、タイ）でも取り組み、ヨーロッパとアメリカにも持ちかけている。こういうソフト・パワーを兵庫県からやりたい。
- もう一段高いものを打ち出さないと、という話があったが、例えばポスターを作ってはどうか。例えば、「兵庫は芸術文化で人や地域を元気にします」という標語の入ったポスターを作って、兵庫県が芸術文化を大切にしようとしていることを県民が自覚できるようになれば、みんながそこを目指すことがはっきりするのではないか。
- 「分厚い文化力」という表現は良い。芸文センターのように目に見えるような形にするのも大事であるが、市町の小さいミュージアムを底上げしていくことも県の仕事として大事。頑張っている小さい美術館を兵庫県全体でネットワーク化してそれを取り上げるとよい。
- 乳幼児をどういれていくかという話では、妊婦さん向けの音楽会や、子どもたちへの絵本の読み聞かせなど、対象となる人を幅広く捉まえて、文化芸術を大事にしているということを打ちだせば、「分厚い文化力」を図ることができ、指標も高められるのではないか。
- 震災後あらゆる文化施設が急速に建設された。ここまで芸術文化の面で進んできたことは、大きな評価だと思う。文化団体の方と懇談をすると、若手の育成をしないといけない、県は広いので積極的に出向いていって文化活動をするための応援がほしいという声を聞く。ハードももちろんだが、ビジョンの根底には、ソフトをもっと充実させていくというものが流れていないとすそ野が広がっていかないのではないか。

- 県として芸術文化立県という意識をもっていても、市町がそこまでの意識を持っているかどうかは問題である。市町では、スポーツ施設、文化施設をどんどん整理、統合している。この温度差が非常に気になる。相当に市町の協力、理解が相まって進めていかないと、県だけの掛け声になってしまう。
- 文化団体からは、後継者育成、若者層への浸透ができないと聞く。表彰制度や全国大会への道など、様々な評価をしてあげてすそ野をひろげ伸ばしていくという方法があると思う。県が「兵庫賞」みたいものを作ってしまふなど、仕掛けづくりが必要。
- 住んでいる地域で芸術的に豊かに暮らせているという思いを、いかに兵庫県下津々浦々に届けるか、具体的に各市町に届く方法はないかと考える。先ほどのポスターはいつも目についてインパクトがあってよい。関係者に届く具体的な方法を考えていただきたい。
- 練習場がないなど都会では言われているが、地域では閉鎖されていく施設があってもったいない。そういう情報を集めて全体のネットワークを作れたらよい。
- 20年以上経っている古いホールを有効活用するために、地方の公共ホールを改修するための全国的な支援、文化庁からのハード面の支援や方策があるとよい。
- 指標の数値だが、本当に地域に住んでいる人が豊かさを感じてもらえる方策をなんとかしてもらいたい。
- 豊岡市では、半年ほど前に6階建ての大きな新庁舎が建ち、「市庁舎まるごと美術館」という構想をとりあげてもらい、廊下や空きスペースなどを使って、大人だけでなく、高校生、中学生、(小学生まで広げると言っているが)の作品を出来る限り飾って、市に来る人の見学に供している。そうすると、そのスペースをまた利用しようという声があがって、音楽会やいけばな展など、動きがでてきた。絵や彫刻などを身近なところで見られるだけでなく、市が持っている有名作家の作品も別の管理できる部屋で提供して見せる、議会の議場も音楽会にする、などもやってくれることになった。兵庫県全体でそのようなスペース、場が提供できないかと思う。芸術の拠点というのは、お金を払って子どもたちが見に行くということではなく、もっと自然に身近に誰でも行けるようなことを考えるとよい。
- ビジョンの中に「地域に啓発をする」という言葉があったが、こういうものは「啓発する」ものかどうか疑問である。
- この会議を神戸市以外でするのはやはり無理なのか。
- 但馬に住んでいるので、但馬のものがないかと素案を見たが、やはり少ない。私どものほうでも廃校を利用してお祭をしている。アマチュアプロを問わず陶器の関係などいろいろな方々をお招きして、販売も合わせたアートのワークショップなどあらゆるアートを拠点とした

お祭をしている。豊岡市からも援助をもらって毎年続けている。こういうちょっとしたことでアートと子どもたちとの交流はすぐできる。永楽館を改修した関係で毎年一回は歌舞伎の片岡愛之助さんが来られるが、但馬でもそういうことができる見本である。ぜひそういうきっかけづくりをしてほしい。

- 童謡を歌う会のみなさんが、地域のモノをだして鍋パーティーをしたら、地域の子どももお年寄りも寄ってきて勝手に踊りだした。何も出てこないようなイベントでも、参加された方からまた是非してほしいと絶賛してもらった。誰でもできるようなことだが、現代はこういうことがなくなったので、いろいろなことが欠落していつているのでは。ネットワークという大きなカタカナのものではなく、ただ人と人とのつながりというような、もう少し下のレベルまで降りて行って、そういうことに関与できるような仕組みをつくってほしい。
- この度ビジョンを改定し、期限を切って、成果を数値でみせるという決断をしたのなら、大きく変わったということを見せることが必要。これまで事業者としての兵庫県は、芸文センターや県美、歴博等を次々作るなど震災以降も成果をあげて着実にやって来た。兵庫県全体が人口減少社会に入り、限界集落の問題も起こっていく中で、単に事業者としての兵庫県というより、市町も含めてそれをサポートしていく、裏方の役割をもう少し頑張ってもらいたい。地域のホールはどこもみんな古くなって困っている、人出がないと困っている。そこで、県が地域に入り混んでそれぞれの課題を受け止め、芸術文化活動を盛り上げていくことにつなげていけないか。そのような連携がビジョンにより強く反映されるとよいのではないか。
- 一つエピソードで、以前歴博で大きな企画展と企画展の間に空白の期間ができ、予算がない中で何かできないかとなった時、養父の渡辺うめさんの農民人形展をすると、爆発的に人が来て、記録を作った。来ている人はみんな地元の人で、作品と来ている人の間が近い。宝物はいっぱいある。それをどう引っ張りあげ、磨いていくかということが、これからのビジョンの仕事ではないか。
- ビジョンの中に、学校現場が頑張っていること、取り組んでいることをもう少し書いてもらいたい。音楽の授業で和楽器を取り入れているが、指導者がいなので、人材を派遣するなど支援を考えてほしい。各地域では、例えば須磨では一絃琴などに、学校のクラブ活動で取り組んでいるところもあるが、そういうところに支援していただく取組もあればよい。
- 中学校総合文化祭音楽部門では、各地区の代表の団体がいろいろな舞台で活躍し、レベルが非常に高い。これは県全体の発表の場であるが、各地区でもいろんな取組をしているが、地域での発表の場を少ないので、そういう機会を設けてもらいたい。各地域で機会を拡げる、子どもたちを育てることにもつながっていく。
- PAC がアウトリーチ活動をしているということであるが、「わくわくオーケストラ」も各地域でオーケストラの演奏会を開くことはできないかと、校長先生たちからの声がある。例えば浜坂中学校が西宮までいくとバスで片道3時間かかるが、和田山のジュピターホールなど

1. 5時間でいける。各地域でわくわくオーケストラ教室も開き、そこに地域の人も来ていただいてもよいとすると、また違った試みに発展するのではと思う。

○ 和楽器の指導者がいないという話があったが、生田雅楽会を作ったが、最近人気が出てきて、高等学校からお呼びがかかることもあるので、また何かあればお役に立てると思う。

○ キーワードは「地域」。各地域に様々なよい施設があるが、ソフト面でもっと連携してやってくれないかという話がある。

○ 2つ目は「伝統文化」。これをなんとかして残せないかという声が強い。その辺の支援をどうするか、というところを大事にしてほしい。取り組まれているとは思いますが、メリハリが足りない。

○ 県内の芸術関係の方々の全県のシンポジウムで課題を聞いたら、子どものファンがいない、後継者がいない、指導者がいない、お金がないと言われている。こういう基礎的な点もビジョンの中に入れてもらったらよい。

○ 条例というのはなかなか難しいと思う。基本理念は継続的にやっていかないといけないことと、情勢の変化によって変えていかないといけないことがあると思うので、後継的な部分をきちっと反映した上で、次の改訂版に活かしてもらわなければ、ゴロツと変わって単なる推進方策を作っているようなビジョンでは弱いのでは。中身を見るとちゃんと入っているようだが、メリハリをつけて作ってほしい。

○ アウトリーチ活動では、活動できる人材数を増加させることが必要。例えば、ピッコロ劇団の団員平均年齢は年々上がっており、アウトリーチ活動するためには、若い劇団員を増やしネットワークをよくしていくことが望まれる。(ピッコロ演劇学校生も含め、地域に非正規団員としてボランティアの登用など)

○ 「本物の芸術に触れる機会の充実」において、オリンピック等を視野に入れて(重点3にも関わる)考えると、世界を視野にした日本の三大楽劇「能・狂言、文楽、歌舞伎」子どもたちに鑑賞又は体験活動として行っていくことが望ましい。(伝統芸能にも精通した芸術文化プロデューサー・コーディネーター・アートマネジメント講座等人材育成)

○ 地域に根差した地域文化に目を向けるために、地域住民はもとより、県内に住む県民が「兵庫の文化」として各地域の文化も身近な存在と認識することが必要。地域において活動している人たちが県内各地とつながって発表・披露・展覧ができる場を設け、県民自身が県の文化に愛着を持てる機会を作っていくことが望まれる。(つなぐプロデューサー、コーディネーター等の人材育成)

- 多言語の情報作成はもとより、県内に在住する諸外国の方々へ「兵庫の文化」が周知される連携体制が必要。県内にある国際学校や外資系会社へ「兵庫の文化」アピールなども考えられる。生の声で「兵庫の文化」情報を自身の国へ伝達されることは、地道ではあるが確かな情報として伝わる。(ex. カナディアンアカデミーでは、毎年「Japan Day」を開催)
- 文化施設の機能向上、改修計画はもちろんのこと、「利活用を図る」ためにも、地域住民対象に施設利用活性化を図ることのできるプロデューサー育成が必要。

## 7 諸連絡

議事録の公開と次回の日程調整、パブリック・コメント等今後の進め方について、事務局から説明を行った。

## 8 閉会挨拶

平野知事公室長が、閉会挨拶を行い、今後のさらなる審議を依頼した。

## 9 閉会